

## 「創価教育研究」と現代

神 立 孝 一

日本の大学を取り巻く環境は今、大きく変化しようとしている。それは一方では人口の自然減少などに起因する少子化の状況によるものであり、他方では2004年度に開始された国公立大学の法人化や、株式会社立の大学の開設などに象徴されよう。こうしたなかで、私立大学の建学の理念が見直されている。そもそも私立大学設立の意義は、その建学の目標とそれを実現するための理念に集約されていると言って良い。各大学の特徴がここに現れ、相互の差別化を示しているのである。

こうした状況下のもと「創価教育研究センター」は、「本学の歴史、ならびに創立者池田大作先生およびその淵源となる牧口常三郎先生、戸田城聖先生の創価教育の思想と実践の研究を行い、創価大学の発展に資すること」を目的として掲げ、2000年11月に開設された。

それからの五星霜はこの目的実現のための具体的作業として、資料の探索を第一に行ってきた。その成果は、牧口先生のこれまで知られていなかった論文や書簡、そして戸田先生が作られた『新教材集録』等の新資料の発見、これまで全容が把握されていなかった池田先生の翻訳書籍の調査収集という形で結実していった。また各種の講演会を主催し、今まで知られていなかった歴史を多くの方々にお聞き頂き、それを本誌に掲載する形で蓄積を図ってきた。こうした諸活動が、まさに建学の理念の理解と深化を促すものであったことにわれわれは重要な意義を感じている。

そもそも「創価教育」とは周知のごとく、1930年に牧口先生が『創価教育学体系』（第1巻）を世に問うたところに出発点がある。「創価」とは、価値の創造を意味している。そして創価教育の眼目は、いかなる困難にあってもこの価値の創造をやめない人間、すなわち「創造的人間」の育成にこそあるといえよう。この考え方が、戸田先生に引き継がれ、そしてその遺志を継承した創立者池田先生によって、1971年に創価大学は創立される。こうした理念の継承が、師弟間でなされていったことが「創価教育」の真髄なのである。いかなる高邁な理念理想であっても、現在を生きる人間に活用されないものは意味を持たない。「創価教育研究」とは、そうした「創価教育」を対象としているのである。

2006年4月に、「創価教育研究センター」は発展的に解消し「創価教育研究所」として新たな出発を迎える。その中に「池田大作研究センター」も開設する。ここで創立者である池田大作先生の思想や哲学の研究が進められる予定である。建学の理念の意味も、より一層広範に、そして深く考察されるに違いない。これまでの「創価教育研究センター」の活動に対し、ご支援とご協力を賜ってきた方々に心より厚く御礼を申し上げますと共に、今後の「創価教育研究所」の活動に対しても、ご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます次第である。